異業種転職

入院体験を機に介護の世界に飛び込んだ、元敏腕営業マン

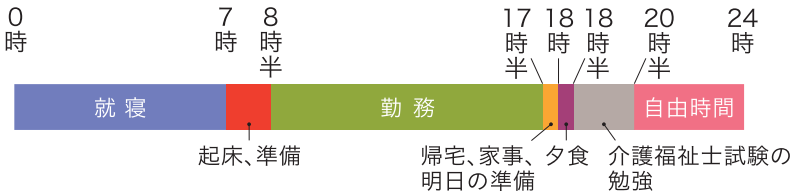
宮前貴史さん／37歳

小規模多機能型居宅介護ひまわり大楠 介護職員

キャリア

18歳頃	高校卒業後、調理師専門学校に入学
20歳頃	手作りパンの会社に就職
21歳頃	ファンシー雑貨の販売会社に転職
22歳頃	全国規模の大手ディスカウントストアに転職
25歳頃	玩具、雑貨の卸販売会社に転職
27歳頃	ホビー関連商品の販売会社に転職
29歳頃	トレーディングカードの販売会社に転職
34歳頃	建築技術者派遣会社に転職
35歳頃	現職に転職

ある日の1日



POINT

- ○思ったほど、人が言うほど、介護の仕事は辛くない
- ○利用者には、案外自分を出して話せる
- ○技術は介護を始めてから、実地で身につけられる！

Q 福祉の仕事を始める前は何をしていた？

商品販売や建築人材派遣などいくつもの職を経験しました

介護の世界に入る前は、介護とは一見無縁の様々な職を経験しました。最初は地元・山口の手作りパンの会社で、新商品の開発などをしていました。次はファンシー雑貨の販売会社に転職し、入社して間もなく店長に、その後は近隣店舗の管理を任されました。そして大手ディスカウントストアで働いたのち、玩具・雑貨の卸販売会社に転職。ここではイベント、大人向けの商材を販売しました。その後ホビー関連商品販売会社、トレーディングカード販売会社に転職。この時期売上2億円をあげたこともありました。その後建設技術者の派遣会社に転職しましたが、現場作業中に脳梗塞で倒れ入院。リハビリを経て現在の介護施設に入社しました。

リハビリ中に介護士に支えられ、介護の仕事に目覚めました

脳梗塞でリハビリを受ける間に、介護に対する意識が変わりました。それまでは、介護職はお年寄りを相手にするので、いろいろと大変でストレスもあるんじゃないかと思っていたのです。しかし、病院で自分のように若い患者をサポートする介護士もいるし、何より楽しそうに働いていたのが印象的でした。そのうち、病院内のお年寄りと話をしていたら、楽しくなっている自分に気づいたのです。介護士さんからも、「君は介護が向いていそうだから、次の仕事を探しているならやってみたら？」と勧められました。それで退院したあと、失業手当をもらいながら実務者研修を受け、試験にも受かったので、「やってみよう！」と決心したのです。

Q 福祉の仕事をする前と後で、イメージは変わった？

── 介護は思ったほど、人から聞くほど、辛くなかったです

介護の仕事は、思っていたほど辛くなかったし、聞いていたほど嫌な事もありませんでした。下の世話は苦手という人がいますが、おむつ交換、パッド交換など、特に抵抗もなくなじめました。人が好き、人と話すのが好きという人には、介護の仕事はおすすめかなと思います。自分も今、この仕事が楽しくてしかたがないです。

でも、昔からそうだったわけではなく、学生時代はどちらかというと人付き合いはあまり好きではありませんでした。介護は自分より上の世代の方を相手にすることが多いですが、意外とそのほうが自分を出せたりするものですよ。ですので、人と話すのが苦手な人でも、思い切って飛び込んでみたらいいのかなと思います。プラスにはなっても、マイナスになることはないので。技術は働きながら身につければいいと思います。10代から20代前半の若い人たちが介護の世界に入ってきてくれたら、意外な自分を発見して楽しい世界になるんじゃないでしょうか。

Q 仕事以外はどんな生活をしている？

── 訪問介護、身体障がい者の介護の夢を追っています

趣味が多いので、休みの日はいろいろとやります。ゲームをしたり、マンガやアニメ、お笑い番組を見たりします。ウォーキングをしたり自転車で出かけるのも好きなので、美味しい料理やスイーツを食べ歩いたりしています。千早あたりまで自転車で出かけることもありますね。

今は介護福祉士を取得するために日々勉強していて、いつか訪問介護もやってみたいと思っています。現在の職場でも、利用者さんのお宅に訪問しますが、利用者さんと介護者が一対一の関係で、その人の深い部分を知ることができるのは楽しいと思ったからです。利用者さんもリラックスしていろんな話をしてくれるのが嬉しいですね。また、身体障がい者の介護にも興味があります。自分自身は脳梗塞になったことで近い経験をしたので、そういう人の手助けをしたいという思いがあります。

取材を終えて

「やってみないと分からない」という思いで、様々な仕事に挑戦してこられた宮前さん。
知らない世界にも飛び込む勇気と好奇心にあふれた姿が印象的でした。